

これまでの主な意見、発言等の整理表

資料 2

第5～8回幹事会より	第2回幹事会資料より	計画フレーム小委員会
(都市・農山漁村関係) - 高齢者にとって住みやすいまちづくりをどう構築していくのか - 医療、福祉、教育は生活圏の中で確保されなければならない - 地域医療の充実は、広域的な連携が必要であり、東北での大きな課題。セーフティネットについては、主要な施策に盛り込むべき - 高度の都市機能、人々が求める都市機能、役割分担などの視点も必要 - 深刻になっている過疎地、中山間地について、東北圏としてどのような方法でこのような地域を活性化していくのか - 山間部や豪雪地帯を多く抱え、人口減少や高齢化、若者の流出等の諸問題が他圏域より色濃く現れている中、今後地域社会の存続自体が危機に直面する地域が増加することも予想され、耕作放棄地など低未領地の増加等の国土利用上の諸問題に対する施策等の充実化を図ることが不可欠 (産業全般) - 経済効率性重視の企業活動と広域地方計画をどのように統合させるのか - 経済拠点機能、食料拠点機能、貿易機能拠点機能などの役割のうち、東北圏が担うべき役割を明確に - 東京の経済力と連携する記載が必要 - 地域内経済循環を図るためには、どのような方策が必要か - 国際競争力を持つ産業群の育成 - 自立的な経済圏域の形成 (農林水産業関係) - 将来の食糧供給を見据え、農村部へのインフラ整備のあり方を考えるべき - 農政の大転換に伴い、取り残される多くの自給的農家、東北ならではのこだわりの農業への対応が急務 (国際交流・連携機能関係) - アジア戦略やグローバルな視点が必要 - シームレスアジアについて東北圏としてどのように取り組んでいくのか - シームレスアジアは、ブロック単位での役割を明確にする。ブロック内での県域をまたいだ施設への投資について行うことが必要 (地域づくり協同体関係) - 自信と誇りは重要なキーワード、住民がこれを持つための方策を検討する必要がある - 外部人材の活用で、外国人居住者をどう活用するか視点が必要 「地域の自立」が大きなテーマである今回の計画では、「地域間の多様な結びつきや連携」が地域の活性化を牽引する重要な要素 (共通)・その他 - 地方分権型社会の視点 - 選択と集中の視点 - 創造性を高めるとか活力といった視点も必要 - 自県での不足機能は、他県と連携する視点も必要 - 主要な施策や具体的な取組に関しては、より実効性のあるものとするため、様々な主体が共有する具体的な数値目標を記載することなどを検討すべき - 南北に長い東北圏の新たな交流・連携を支える日本海国土軸形成の意義 - 東北圏には、特色のある大学や研究機関が存 在しており、これらが相互に連携・補完し合うことでその教育・研究力を高め、圏域全体として国内外から多様な人材を引きつける魅力を持った専門的大学群先進圏域を目指す	(強み、弱み等) - 人口減少、高齢化の進展、高齢単独世帯増加 - 若者を中心とした人口流出、雇用の場がない - 新たなライフスタイル志向する移住者の存在 - 恵まれた自然環境と自然資源、豊かな水環境 2次産業が弱い産業構造 - 自動車関連産業、ものづくり産業の集積、伝統産業の新たな展開が見られる - 脆弱な広域交通、域内交通基盤 - 対事業所サービスなどで県外に依存 - 中心市街地の衰退 - 多彩な観光資源(温泉地など) - コンテナ貨物取扱量の増加、リサイクル産業が集積しつつあるリサイクルポート - 地域資源を活かしたニューツーリズム - 県境に集中する観光資源の広域連携が課題 - 地域の精神文化に触れる文化観光が注目 - 雪エネルギーの利用 - 多様なエネルギー施設の集積 - 国際的な核融合研究拠点の整備 - エネルギー自立的な地域づくりの実践 - 風力、バイオマスエネルギー - 継承されてきたエコライフ、スローライフ - 医師不足 - 地域に残る互助・公益の精神 - コミュニティ機能の衰退 - NPO、ボランティアの増加 - 豊富な農林水産資源、環境と共生する農業 - 食料自給率全国2位、コメに偏重した生産 - 高齢化、後継者不足、森林や農地の荒廃 - 安全・安心・良質な食料生産、販売 - 地域資源を活かしたまちづくり - 自然との共生を重視する文化 (計画に求めるイメージ、キーワード、戦略等) - 持続可能な地域づくり、ナショナルミニマムの確保(医療・福祉、教育等) - 環境と食料・エネルギーの戦略基地 - 社会資本の機能を高め、域外からの投資をどのように呼び込むか - 各県の連携・機能分担により自立的に発展できる産業構造を構築し、アジアに開かれた広域経済圏の形成を目指す - 将来を担う産業人材を育成できる環境構築 - 大規模な自然災害への対策を構築し、安全安心な国土の形成を目指す - 個性ある地域拠点が都市ネットワークで結ばれ、地域資源を活かした集客交流や産業振興による活力に満ちた地域社会の構築を目指す - 機能集約型のまちづくりを目指すべき - 豊かな自然、歴史文化等を生かした個性ある良好な景観の形成を図るべき - 地域を牽引できる産業振興、地域の人々が実感できるメリットに結びつけていく戦略 - 条件不利地域に対しては、地域の特性に応じた対策を行い、そこに住む人々の安定的な生活環境の構築を目指すべき - 若者定住対策、コミュニティ機能の再生 - 美しさと生命力のあふれる東北圏を目指す - 交流人口を拡大して住む人自身の元気が出るような戦略 - 伝統、文化、風土、農山漁村等の日本の原風景を守っていく - 高次なサービス提供機能の集積促進 - 豊かな長寿社会の実現 - 地域循環型経済の構築と地域の宝を活かした産業づくり - 地域が主役の活気あふれたまちづくり - 雇用の創出と多様な就業機会の確保 - 環境との共生と循環型社会の形成 - 多様な主体の参加と連携による地域づくり - ユニバーサルデザインや超学際的取組の推進 - 多種多様な分野・レベルでの交流・連携を進め、各地域が相互に補完し合うことが重要。 - 日本海側拠点都市の縦断的連携の推進 - 環境負荷の軽減、地球温暖化対策を踏まえた環境整備 - 過度に東京に依存しない新しい国土構造 - 女性や高齢者の就業支援	(環境、国土管理関係) - 環境についても日本の中でも先進圏であり、東北が良くなれば日本が良くなるという気概を示すべき (都市・農山漁村関係) - 地域の安全を確保するために、ハザードマップやリスクマップは重要。地域での安全の認識を高めたまちづくりが必要 - 都市景観・電線地中化などの視点 - 若者にとって、魅力ある東北とはどのようなものか仕事だけでなく文化的な側面やアメニティなどからも考えるべき - コンパクトシティはしっかりと進めるべきであるが、公共投資のメリハリや進める上でのインセンティブのあり方なども考える必要があり、進め方などを示してリードすべき - 地方都市の中心市街地の活性化問題なども地域社会自体を再構築する視点が必要 - 流域の考え方や小都市の並びなど地域連携の軸を考えることが必要 - 高速交通網の整備は、一体感の促進に寄与してきた。磐越道などの横軸の整備が進み、横軸の側面も出てきている。交通網による一体化の議論は必ず必要 (産業全般) - 優秀な企業もあるが、相手先が、域外で域内に結びついていない - イノベーションセンターが必要 - 電子・電機、自動車の他、エネルギー、環境、非鉄など東アジアスケールでの産学官連携で世界に貢献できるシナリオ具体的に打ち出すべき - 隣接県を含めた連携の中で自動車クラスターを考えるべき - 産業については2重の側面がある。グローバル競争への対応と、地域の中でのコミュニティビジネスの考え方で、ある種の循環型経済の構造 - 地域外経済に頼ってきている依存の意識がきわめて強い - 第2次産業部分を強調しすぎではないか - 東北にデマンドのあるものを研究開発し、定着させていくことが必要。ここで教育を受けた人が定着できることが必要。裾の広い産業、付加価値の高い産業が必要。5年、10年かかってもどっしりとした産業集積を行うことが必要 - 単なる産業集積強化ではなく、東北に立地しなければならない理由、東北ならではの産業を - 食品加工業は、キー中のキーである 6次産業戦略 (エネルギー) - 東北はエネルギーの供給基地であり、青森県を積極活用するスタンス (農林水産業関係) - 東北では、比較的広域の農業が可能な条件があり、改革は必要であるが、恵まれているという内容を書き込み、少しでも強い農林水産業になるよう続けていくと いうような方向ではないか - 農業については、大規模化するモデルではなく小農地をうまく使う仕組みなど今の農政と違うものを作っていくシステムが組み込まれている例もある - 商業と農業を組み合わせる仕組みなど、朝市や周辺の農作物の販売によって、都市的な産業と農業の結びつきも考えられる - 付加価値の高い加工品を含め、地産地消でやっていくことが必要 - 農村的な風景、個性的な都市、商店街、歩いていける街などが観光資源となる - 日本の農政をリードできる可能性がある。食の安全・安心のブランドとしても東北がリードすべき。 - 林業経営は、フィンランド、ドイツなどのように自前で林業資源を活かしていける状況を作れると思うが、問題は担い手 - 地球温暖化に対して、例えば、温暖化を見据えた作物を考えるなどの戦略が必要 - 地域の人ベースで1次産業について、ビジョンを考えるべき。観光などとも連携して売りのビジョンがあるはず (観光関係) - 東北圏は出国率が一番低い。海外との交流、高める意識に欠けている。どうやって克服していくのが東北の課題 - 観光消費額を域内でどのように獲得するかの方策が必要。都市との格差は正にも観光は役立つ - 特徴的な文化と東北的自然を活かした国際的に魅力あふれる観光振興、これによって地場産業が振興する (国際交流・連携機能関係) - 国際港がいくつかあるが、利便性が良くない。八戸、秋田、仙台塩釜、新潟4港を国際港として集約しても良いのではないか。他の港は他の用途にするなどの特 徴付けを行うことも必要では - 農産物を含めて需要が増加するのではないか、小口の荷物をいかに効率よく集荷してコンテナ化できるかであり、これには広域な連携や交通ネットワークが必要 - 北関東地域ブロックとの調整が必要なものもあるのではないか。グローバル小委員会でもこの地域とどういうことが考えられるのか考えたい - 物流では、介在する商社が域内に少ない - 色々な戦略性の中で、新潟をどう位置づけていくのか、また、各々の分野の戦略性をどのように考えるのか - 日本海側の航路が重要な時代。新潟港が重要拠点であることは明確。これまでのような日本海軸ではなく、説得力、リアリティのある絵が描けると良い (地域づくり協同体関係) - 計画を進めていくための仕組みや人づくりが重要 - 公が果たしてきた機能を今後どうするのか、民に転換して問題が生じている例もあるが、共に委ね、地域社会の役割に委ねることが必要。地域社会の再編成を図ることを明確に打ち出すべき - 文化的な発信をしていくことも東北圏に必要。人づくりの中で、文化的なものを創っていく観点もある。 - 東北はこれまで行政主導、まちづくり団体や任意団体が出てきてはいるが、行政との間での協働は充分ではない - 東北圏は巨大な河川が多い。この流域圏のコミュニティ活動は独自性ではないか。 - 東北は、担い手づくり・しくみ作りが脆弱。これらは産業や観光などを支える部分でもあり、運動論を位置づけることも必要